

富士山の東麓にゆったりと広がる富士小山ゴルフクラブは、元通信省事務次官、日本曹達社長の和田悌二氏を中心に財界有志20名が発起人となり、中村寅吉プロ設計により小山・御殿場地区5番目のゴルフ場として昭和37年にオープンいたしました。

当倶楽部での大きな競技会開催は、昭和57年に『第33回関東オープンゴルフ選手権』、昭和62年および平成21年の『倶楽部対抗県予選』競技の開催があります。今年は静岡(5倶楽部)、山梨(3倶楽部)、長野(5倶楽部)、そして昨年度決勝大会成績によるシード倶楽部(3)の計16倶楽部の強豪チームと、開催コース(富士小山GC)を合わせた計17倶楽部が集う第2ブロック大会会場に選ばれたことは誠に光栄であり、選手および関係者の皆様にご満足いただけるコンディションと、ブロック大会にふさわしい舞台を整えるべく、コースメンテナンステナンスと準備を進めてまいりました。

当倶楽部は標高550メートル〜600メートルに位置し、富士山と丹沢山系に囲まれた地形のため局地的な前線が発生し、当地方だけが雨や雪になることがあり「御厨の私雨」とも呼ばれています。そのため静岡県内でも日照時間が少なく、冷涼多雨という気候とあわせ、歴代のグリーンキーパーは芝の生育、グ

リーンのコンディション維持には頭を悩ませてきたと思います。

当倶楽部のグリーンは芝種ベンクロスは葉が広く、低刈りできない性質のため、グリーンスピードを出すには目土散布・転圧となりますが、天候に左右される作業のため、練習日の段階から速さを出すように指示されたグリーンキーパーが、当たらない週間天気予報を見ながら、頭を悩ませていたようです。

幸い今年は冬期の大雪もなく、4月こそ日照は少なく雨が多かったものの、5月は気温が高く晴れの日が続いたため、コースメンテナンステナンスも順調に進み、まずまずのコンディションで開催できたのではないかと自負しています。

春先から練習ラウンドにお見えになっていたある強豪倶楽部の選手が「今回も富士小山に来ています。このグリーンは本当に難しい。富士山から順目というのはいわゆるですが、そうではないホールもあります。グリーンが高速になったとき、読みを信じて1パットのしつかり打てるか……。それが問題です」とおっしゃっていたのが印象的でした。

さて大会が近づくにつれ、週間天気予報は、梅雨真ただ中にもかかわらず、大会前日(24日)と当日(25日)だけ晴れ間が出る予報。そして翌日は雨模様という予報です。前日が好天に

恵まれたため、コースコンディションを整えることができたことは何よりでした。また競技当日は、気温25度、平均風速3メートル、この時期としてはこれ以上望めない好天となったことは、すべての大会関係者が胸をなでおろしたのではないかと思います。またベストスコア賞もAクラス佐々木清士選手(葛城GC・69)、Bクラス茅野弘喜選手(諏訪湖CC・71)と、両クラスともアンダーパーとなる見事な成績となりました。

結果は葛城ゴルフ倶楽部(静岡)と諏訪湖カントリークラブ(長野)が301ストロークで並び、競技規定により葛城GCが見事優勝を飾りました。そして第3位にはシード倶楽部である富士チサンカントリークラブ(静岡)が入賞



結果は葛城ゴルフ倶楽部(静岡)と諏訪湖カントリークラブ(長野)が301ストロークで並び、競技規定により葛城GCが見事優勝を飾りました。そして第3位にはシード倶楽部である富士チサンカントリークラブ(静岡)が入賞

遠くの富士山より 近くの「小山」

(富士小山GCの戦略性の高さ誇る会員同士の格言)

し、決勝大会への切符を手に入れました。今回、当倶楽部は開催倶楽部シードでブロック大会からの参加をいたしました。各選手とも力一杯プレーをしましたが、惜しくも4位となりました。この悔しさを糧に、来年の県大会では巻き返しを期待したいと思えます。また決勝競技に進む3倶楽部と決勝シードの富士宮ゴルフクラブには、東京ゴルフ倶楽部での活躍を期待し、ご健闘を祈念いたします。

最後に、本競技開催にあたり、児島



開催倶楽部、富士小山GCの代表選手と関係者。



富士小山GCチームの活躍。左から。井上、釜谷、山口、杉之間、西田の各選手。

決勝進出倶楽部

平成27年6月25日(木)参加倶楽部数17/通過倶楽部数3



1位 葛城ゴルフ倶楽部/301ストローク



2位 諏訪湖カントリークラブ/301ストローク



3位 富士チサンカントリークラブ/305ストローク

ベストスコア賞



左から。Aクラスの佐々木選手、Bクラスの茅野選手。



左から。富士小山GCの平本キャプテン、長田常務取締役支配人、児島競技担当委員長。



富士小山GC研修会の皆様によるお見送り。